

春の兆し 訪れ

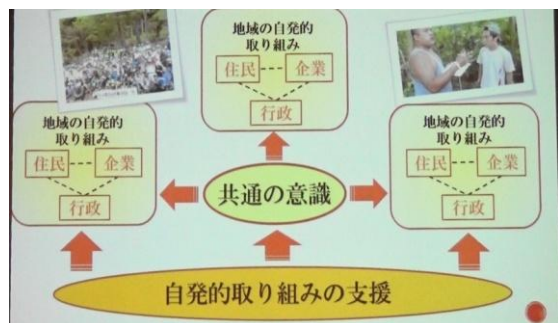
華道部作品（玄関前）



2 学年 課題研究 全体発表会

2月22日（木）午後、「課題研究全体発表会」（1、2年生全員）が行われました。普通科普通からは、学年選出の6グループ、国際コミュニケーションコースからは、希望者グループ2班が、修学旅行（普通…鹿児島、国際…ドイツ）を通じたグループでの取り組み（課題設定、調査、研究、考察）について、スライド資料を用いながら講堂で発表しました。

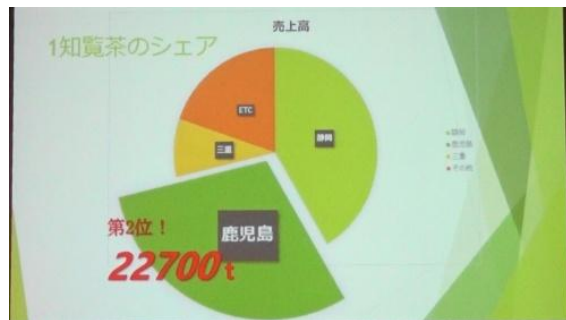
当日の前半は、修学旅行委員による開会、閉会の挨拶、司会によって発表が進行し、会の後半は、広島大学大学院教育学研究科教授の曾余田浩史先生から、発表に対する講評や、これからの大学での「学び」についてお話いただきました。





栽培の工夫

- 基盤の目状の溝
 - 干ばつに強く、肥料持ちがよくなる
- 微生物を殺さない肥料(土手の草)
 - 石灰窒素により有害な幼虫だけ死滅
- 3年に1回の植え替え
 - 安定した収穫量



キャンドルの意味

- 1本目「予言のキャンドル」
- 2本目「天使のキャンドル」
- 3本目「羊飼いのキャンドル」
- 4本目「バツレヘムのキャンドル」



2018.02.22

広島市立舟入高等学校 課題研究共創発表会

講評

- (1)本日の発表について
- (2)大学での学びとのつながり
- (3)これからどのように学んで欲しいか

広島大学大学院教育学研究科
曾余田浩史

HIROSHIMA UNIVERSITY

【生徒の振り返りより ～課題研究一連の取り組みから全体発表に至るまで～】

2年生

- ・班内での協力がなければ素晴らしい作品を作り上げることはできないと感じた。
- ・講評の中で、「著者と対等になって対話しながら本を読む」ことを習慣化させることが今後の学びにつながるということがわかった。
- ・クラス内での発表を聞いていたが、その時よりさらにグレードアップしているのがわかって素晴らしいと思った。
- ・まさか自分たちの班がアカシヤで発表するとは思ってなかったので、今日は選ばれた自信と嬉しさと、そして緊張感でいっぱいでした。周りから見てもどうだったかはわかりませんが、ポスター発表の時より内容も深められました。今日で一応終わりですが、これまでこの班でやってきたことを大学や社会に出たときに応用していきたいです。
- ・講評の中で、大学における学び、学問を「身を削る」と曾余田先生が表現されていて印象に残った。「問い」をたてて、自分の中で「対話」を繰り返していくのが学問なら、今までに自分が経験したことを引き出し比較するわけだから、たしかに「身を削る」と言える。場合によっては文字通り「全身全霊」をかけることもあるだろう。いままでの勉強と比べ、学問ははるかに消耗が激しいものだとわかった。今回の課題研究は、「消耗」という点で、大学での学びに通じると思う。発表内容を考えるにあたって、うまく考えがまとまらずパンクしそうなことが何度かあった。また、修学旅行で得たことをまとめ、先生(集団)に発表し、返ってきた反応をもとに書き直すという今回の手順は、大学での学びの構造と似ている。課題研究は、「プレ学問」と言えると思った。内容・質はまだまだ甘いかもしれないが、これまでの過程を大事に学んでいき

いと思う。

- ・自分たちの研究発表は、もっと主体的にすべきだったと思った。自分たちがタイトルにあげたものは、自分たちが「知らなければならないこと」ではあったものの、「知りたいこと」ではなかったために、やらされている感じがでていたのだろうと思った。先生のお話にあるように「学び」は遊びであり、自分のやりたいことができる大学に入るのがまた少し楽しみに思えた。
- ・発表はすごく充実した1時間になった。それぞれが伝えたいことを丁寧にまとめて、言葉とパワーポイントで、提案を行っていて面白かった。実体験をふまえた説明や写真が使われていてよかった。
- ・評価する基準を設けることはとても難しいことだと思います。創作されたものに対する視点はひとによって異なるし、誰の視線が正しいかもないからです。もっと多くの講評を多くの角度から伺いたかったです。
- ・各班、さまざまな視点から「持続可能な社会をつくるため」の考察をされていて面白かったです。でも、先生がおっしゃった「自分の頭や身体で考えた」ものは少なかつたと思いました。私もクラスで発表した時、ありきたりな考察しかできなかったの、人のことをあれこれいう資格はないけれど、これから先、もっと「自分の頭や体で考え」発言しようと思います。「自己内対話」をすることで、学びの質を上げます。
- ・自然、平和、教育などさまざまな視点から私たちができることや持続可能な社会について考えることができるとわかりました。課題研究の取り組みを通して、改めて、日本が直面する問題を考え、身近なことと関連づけるべきだと学びました。
- ・ドイツに元々興味があるので、どういう発表になるのかとても楽しみにしていた。難民についてはとても興味深い発表だった。日常ではあまり考えない問題だけど、今日のグローバルな世界では他人事ではない問題であり、考えていかなければならない問題だと思った。
- ・この発表やそれまでの取り組みを通じて、修学旅行を単に「楽しい」で終わらせない活動ができたと思う。各自で一生懸命データを集めて話し合いながら、みんなで作上げるものはとてもよい思い出になった。同じ景色を見ても、それをどういう形で自分の中にインプットできるか、アウトプットできるかは人によってさまざま、だからこそおもしろいと感じた。大学でも、自分とは違う考えをもつ人との交流を積極的にして、自分の視野を広げていきたい。

1年生

- ・数ある発表から選ばれたので精鋭方の発表はよかったが、どうしてもよい面ばかり紹介しているように感じた。もう少し悪い面があって、それでもよい面がありますというように紹介していたらもっとよいと思った。
- ・2組の発表になるほどと思った。大切なのは、なぜ戦争はよくないのか、平和とはどういうことなのかを考えることなのだとわかった。それこそ「自己内対話」だと思う。
- ・現地に行った人しかわからないことを掘り下げる、次につながるようにするということに気をつけて来年しようと思う。
- ・修学旅行中もただ楽しむだけでなく、研究、課題の調査を進めていたことが伝わった。